

令和 7 年度第 3 回

小金井市環境審議会会議録

## 令和7年度第3回小金井市環境審議会会議録

- 1 開催日 令和7年8月19日（火）
- 2 時間 午前10時から午後12時25分まで
- 3 場所 メタウォーターサステナブルパークこがねい
- 4 議事 (1) 小金井市気候市民会議について  
(2) 小金井市地球温暖化対策地域推進計画見直しについて
- 5 報告事項 (1) 環境報告書（令和6年度版）（案）について  
(2) 小金井市地球温暖化対策実行計画（市役所版）見直しについて  
(3) その他
- 6 次回審議会の日程について
- 7 出席者 (1) 審議会委員  
会長 池上 貴志  
副会長 椿 真智子  
委員 高田 雅之、和田 直人  
田頭 祐子、橋本 修  
(2) 事務局員  
環境部長 柿崎 健一  
環境政策課長 岩佐 健一郎  
環境係長 高野 修平  
環境係専任主査 荻原 博  
環境係主事 田山 未来  
環境係 阪本 晴子  
(3) その他出席者  
エヌエス環境株式会社
- 8 傍聴者 0名

## 令和 7 年度第 3 回小金井市環境審議会会議録

池上会長 それでは、定刻になりましたので、令和 7 年度第 3 回小金井市環境審議会を開催させていただきます。

お忙しいところお集りいただきありがとうございます。

それでは、早速、事務局から事務連絡と本日の配布資料等の確認をお願いします。

田山主事 本日は、土屋委員、高木委員、近藤委員、中里委員よりご欠席の連絡を受けております。

続いて事務連絡です。ご発言の際の注意事項についてです。マスクを着用されている場合、会議録作成の際に I C レコーダーの録音内容が非常に聞きづらくなってしまいます。つきましては、質疑応答等、ご発言の際は、ご自身のお名前を先におっしゃった上でのご発言にご協力をお願いいたします。

また、できる限り短時間で有意義な審議会となるよう努めてまいりますので、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

本日は、次第と資料 1 ~ 6 、参考資料として「環境報告書（令和 6 年度版） 意見等記入様式」を机上に配布しております。不足等がございましたら事務局までお願いします。

なお、次第には資料 2 として「第 2 回小金井市気候市民会議アンケート結果」としておりますが、第 2 回気候市民会議の報告書（案）を本日の審議会に間に合わせることができましたので、アンケート結果だけでなく報告書（案）として机上配布しております。

また、前回第 2 回環境審議会の会議録について、校正のご協力をいただきありがとうございました。第 2 校までいただいたものを最終稿として市 H P 等で公開いたします。以上です。

池上会長 はい、ありがとうございます。配布資料の確認が終わりました。

それでは、本日の議題に入ります。事務局から資料の説明をお願いします。

高野係長 それでは（1）「小金井市気候市民会議について」を説明します。最初に、資料 1 「第 1 回小金井市気候市民会議開催報告書」及び資料 2

「第2回小金井市気候市民会議報告書(案)」をご覧ください。

こちらの審議会におきましても昨年度らいから気候市民会議についてお諮りさせていただいておりました。7月の審議会開催以降に第1回気候市民会議とフィールドワーク、第2回気候市民会議までが終了いたしました。資料1と資料2につきましては、こちらの第1回と第2回の報告書になっていまして、フィールドワークにつきましては市のHPで公開しておりますので、そちらをご覧頂ければと思います。

まず資料1についてご覧ください。こちらは、7月6日(日)に開催しました第1回気候市民会議の開催報告になります。参加者につきましては、3番目のガイドにありますとおり無作為で抽出された市民31名のうち25名に参加していただきました。当日のテーマを「再エネ、省エネにおける市の課題」、「まちづくり、ごみ、交通における市の課題」や「環境教育、参加協働における市の課題」といたしましてワークカフェ方式で実施しまして5グループに分かれて、それぞれ皆さまテーマごとに席を移動しながら議論していただきました。4番目の当日の流れにありますとおり市長の開催宣言のあと気候市民会議の年間予定を説明したあと法政大学名誉教授、田中先生に気候変動問題の現状と将来、その対策のご講義をしていただいたあと、グループワークを実施しました。今回、無作為で参加された方だけでの開催であったので、どういったかたちで皆さんご議論いただけるのか心配はあったのですけれども、皆さま真剣に議論を交わしていただき、それぞれのグループがかなり盛り上がっておりました。危惧はいろいろとあったのですが、事務局としては成功したのではないかなと思っております。

続きまして資料2をご覧ください。

資料2につきましては第2回気候市民会議の報告になります。

3番目の開催概要にあります通り、テーマを課題解決に向けた取り組みの検討といたしまして、第1回気候市民会議で出た皆様の議論の中からでたテーマを複数絞りまして、取り組みの検討という形で、ワークをしていただきました。

参加者につきましては市民17人と少し減ってしまったんですけれども、当日台風9号が、直撃する可能性もあり、その影響もあって、

開催ができないかもしれないという状況であり、参加者が減ってしまったのではないかと思われました。人数自体は減ってしまったんですけども、第1回目に引き続きまして、かなり議論詳しくしていただき、盛況がありました。

第2回目につきましては、ワールドカフェ形式ではなくて、それぞれ、グループに分けてそれぞれ1つ1つテーマを絞って、詳しく議論をしていただきました。

グループテーマとしましては、「再生可能エネルギー省エネルギー」、「公共交通移動手段」、「ごみ減量化とリサイクル」、「緑地の保全・創出」、「環境啓発と教育・学習、情報発信とコミュニティ」と5つのグループに分かれて議論をしていただきました。

当日、参加者の少なかったDグループとEグループを1つのテーブルとしまして、計4つのグループに分かれて議論をしていただきました。当日は議論を行っていただく前に株式会社住環境計画研究所の主任研究員の岡本洋明様に「家庭における脱炭素について」ということで、家庭部門についてをメインに講演をしていただきました後、グループに分かれて議論をしていただき、提言書のたたき台を作成しました。

こちらの提言書案は、9月6日に開催される第3回気候市民会議で、詳しく見ていただき、修正するところを修正、加筆していただき、提言書案という形でまとめたいと考えております。

簡単ではございますが、私の方からは以上です。

池上会長 はい、ありがとうございます。

それでは質問コメント等ございましたらよろしくお願ひいたします。

田頭委員 私、2回目の気候市民会議を傍聴させていただいたんですけども、皆さんとても活発で、その場の雰囲気になじめないというか、入り込めない方がいなかつたということが見えていたと思います。とても素晴らしいなと思ったし、頼もしいなと思いました。

終わった後に、たまたま帰り口で一緒になった方に声をかけたら、高校2年生だったんです。高校2年生がどうして参加してくれたの？

とか、参加してみてどうだった？ということをお話しさせてもらつたんですけど、無作為抽出で当たつたから行ってみようと思ったとい

うことが 1 つなんですけど、違う世代の方とか、ふだん話をしない人たちと話をするのは楽しかったと言ってくれたんですね。そういうことって本当に貴重だなと思っていて、そういう方を第 2 回、3 回でおしまいにしないで、次に何とかまたつなげていくような方策、考えができないかなと思ったのが 1 つ強く印象に残りました。

ですので、この前もちょっと提案したんですけども、環境フォーラムもあったり、小金井市がやっているいろんな取組があるので、何とか参加された方たちに、市の取組にぜひ参加してみようと思ってもらえるような仕掛けができたらいいかなと思うんですけども、何かお考えのことがあればお聞かせいただきたいなと思いました。

以上です。

池上会長 事務局から回答をお願いします。

高野係長 田頭委員、どうもありがとうございました。実際に今回の無作為抽出も当初事務局では 18 歳以上ということを想定していたんですけども、この審議会において、もっと若い世代の声をという声がありましたので、16 歳以上という形に引き下げて無作為抽出をしました。その結果、高校生にも参加していただけましたので、事務局としましても、若い世代の参加という希望を 1 つ形にすることことができたので、審議会で議論いただいた結果が出たのかなと思っております。

次につなげる方策なんですけれども、11 月の環境フォーラムでは、今のところは、パネル展示等で啓発したいとは考えているところです。

2 年後、第 2 回目の気候市民会議を開催する予定になっておりまして、そのメンバーも無作為抽出で考えているんですけども、今回、第 1 回目の令和 7 年度に参加していただいた方も交えて、合体した形で、第 2 回目の令和 10 年度の気候市民会議を開催できればなとは思っているところです。

ただ、それまではちょっと時間が空いてしまうので、その間に何か、次につなげる方策というところも、気持ちをつなぎ止めるというところも必要だと思いますので、そのところはまだ具体的に何かというのがないんですけども、せっかく気持ちを持って参加をしていただいた方というので貴重な小金井市の問題だと思っておりますので、何かできればいいかなとは思っているんですけど、具体的にはこれから

考えたいと思っております。

以上です。

田頭委員

ありがとうございます。今伺って、確かにそうだなと思ったんですけれども、第2回目が実はその2年後にまたあるということも市民の方にお伝えしたところ、それはすごいねと言われました。ほかの自治体は、なかなか次のことまでは考えてないというか、次を考えているところは少ないんじゃないかなというところで、すごく評価されたのが私もうれしいな、誇らしいなと思いました。

ですので、次につなぐ、第2回目のところには1回目の方も参加できるような仕組みもすごく大事だと思うし、おっしゃったように、空白の期間がもったいないなとも思うので、1回目の気候市民会議の方たちに、次に何をしたらいいかということをぜひ聞いていただきたいなと思うんです。

例えば合同の、合同というか、環境審議会もこうやって掲げながらというか、関心を持っている、そういう人たちがいるわけだから、何か一緒に学習会とか講演会みたいなものを企画するとか、アクティビティでもいいですけれども、何か一緒にできるようなものがあれば提案してもらって、それを1回実現できるような、そういった取組を実際にやってみると、さらに自分事になるんじゃないかなと思いましたので、その辺も御検討いただければありがたいと思います。

以上です。

高野係長

分かりました。ありがとうございます。逆に質問なんんですけど、その提案というのは、3回目の気候市民会議、次回は9月にあるんですけれども、そのときにある程度提案しておいたほうがより実効性がある形につながっていくかなと思うので、そういったところで、どうなるか分からないけれども、皆様から、意欲があって参加していただいているので、アンケート結果を見ても分かるとおり、前向きな回答が非常に多くて、すごくうれしくなってしまうような状況なので、ある意味、会長とも話はしていたんですけども、離したくないという、言い方は悪いですが、逃がしたくないというところがあるので、そういった中で、何か皆様、提案すればもしかしたら、私たち、そういうのはできると言ってくださる方もいらっしゃるとは思うので、何か少

し、次回のときに提案できるようなアンケートみたいな形で、できれば検討させていただきたいです。

田頭委員

そうですね。こちらからも提案するし、皆さんからも提案してもらって、市民提案事業じゃないけれども、提案していただいたものを一緒にやりたいと思うのでという前提で御意見をいただくと、やはり言ったことが形になると、またさらにもう一步意欲が進むと思いますので、そんなことも考えていただければと思いました。

以上です。

岩佐課長

今、田頭委員から御意見をいただいて、高野のほうで回答いただいたとおりなんです。環境のイベントとか政策を知らない方が大半でして、初めて気候市民会議に参加して知ったという方々が非常に多かつたので、市のイベント、フォーラムとかフィールドワークとかありますので、そこら辺も御紹介させていただきながら環境啓発の輪を広げていきたいと思いますし、講演とともに、色々な団体さんがありますので、そういう団体さんの御紹介も折に触れて御紹介できればコミュニティも広がっていくのかなと思いますので、そういう周知は注力してやっていきたいなと思っています。

田頭委員

環境市民会議でもすごく皆さん関心を持っていますので、市民会議の色々な活動団体が実際にあるということを多分御存じないと思うので、どこかで一緒になれたらいいなということも思いました。

以上です。

池上会長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

椿副会長

今、田頭委員がおっしゃったことに近いことを私も思っていたのですが、アンケートを拝見し、事前にイメージしていた以上に、参加された方々の満足度とかいろんな意見を言えたという方が多く、それは本当にすばらしいことだなと思いました。

今もお話をあったとおり、多様な世代の方が、限られた時間でありますながら、同じようなテーマ、意識を持って議論できたことは財産になっていくと思います。例えば今回および次回参加された方々に、環境に関わる市や市民団体等がやっておられるイベント情報を例えればメールアドレスなどをいただけるのならば、流していいかどうかをアンケートに入れていただき、よいということであれば、今後企画・実施さ

れるものについて持続的に情報を提供することもありじゃないかと思いました。

それから、1回目、田中先生、2回目、岡本先生、講演の内容も興味深かったという回答が多かったので、この講演でお使いになられたパワーポイントのスライド等、一般に公開して見ていただくような形にすることはできるんでしょうか。

以上です。

高野係長

ありがとうございます。環境の情報を継続的に流してもよいかというご質問について、定期的にそういった情報を流せるような仕組みができればなと思っております。ありがとうございます。

あと、当日の資料、講演のスライドも含め講師の方から御提供いただきまして、市のホームページに公開しても大丈夫ということで了承をいただいておりますので、今、第1回目と第2回目までの全ての講演のスライドも含めて資料をホームページに公開しております。ただ、第2回目のところは少しだけ、当日の資料を一部加工したものにはなっているんですけども、一般の方が見ても分かるような形で公開しておりますので、ご確認いただければと思います。

椿副会長

分かりました。ありがとうございます。

池上会長

ありがとうございます。他、いかがでしょうか。では、私から。

当初心配していた、積極的に参加してもらえるかですか短い時間で意見をまとめられるのかですか、そういった心配がありましたけれども、すごくたくさん意見が出てというところは、ファシリテーターの方もすごく貢献されているのかなと思いました。先ほども出てきましたけれど、いろんな年代が参加している会ってなかなか他にはないというところはすごくあると思いますし、こういういろんな年代がディスカッションできる場を継続的な組織として持っていること自体が、環境教育に力を入れている小金井市としてあってもいいことのかなというのは、今回見させていただいてすごく感じました。

特にほかの年代と話し慣れてない年代もいると、なかなか積極的に意見を言えなかったり尻込みしてしまったりということはあると思うんですけども、そうではない人たちが集まっているというのはすごくいい機会だったなと思います。特に無作為で抽出したのに、こうい

う状況ですから、もう少し広く募集すれば、もっともっと集まるんじゃないかなと思いますし、毎回毎回全員が参加するような組織でなくとも、参加できるときに参加できるような組織があると、いろんな情報の共有もそうですし、経験の伝承とかそういうことにもつながるかなと思いますし、とても良いと感じました。

以上です。

他、いかがでしょうか。お願ひします。

高田委員

感想です。1点目は、気候変動というのは単に化石燃料から出てくる主にCO<sub>2</sub>の問題ではなくて、非常に幅広い問題として、まちづくりとか緑、ごみの問題、教育の問題として捉えられているなというのがすごくよかったです。1つ。

もう一つは、よく専門家にアンケートするときに、デルファイ調査というやり方があって、専門家にアンケートを取ったものを、集計してフィードバックしてもう一回意見をもらうんですよね。それを繰り返す。ほかの人がどういうことを言っているかということが自分の意見に作用するという、そういう効果が1回目と2回目を通してあるというものです。これは、今後の市民との対話とか意見交換の中でも生かしていくいい手法じゃないかなというのが2つ目。

3つ目は、これをどう実現していくかというところがやっぱり問題だと思いますので、それも市だけじゃなくて、周りの市と一緒にすること、東京都や国、あるいは市民や企業等、色々なところと連携しなければいけない。簡単な問題ではないんですけど、次に何をしていくかということがすごく大事だなということを改めて感じました。大変よかったです。ありがとうございます。

高野係長

高田委員、どうもありがとうございます。この意見の中で、私、要旨までは先ほどお話ししなかったんですけども、要旨として個人的に面白いなと思ったのが、実現性は別にというところなんですけれども、コミュニティバスの問題が結構ありますし、情報提供の強化であったり、若者向けに、小学生のうちからコミュニティバスに乗り慣れてもらうために、子どもたちに回数券を配付したらどうか。それを配付すれば、どこかに用事があるわけでもなくて、コミュニティバスに1回乗ってみて、そこでファンになるみたいに、こんな提案があって、

それって面白いなと思いました。また、スタジオジブリ、市内の企業、イトーヨーカ堂のような大きなところと協力をしたらどうかという提案もありました。面白かったのは、インフルエンサーと協力し合って情報発信したみたらどうかという話がありました。あと田頭委員からもあったようなプレゼン大会のようなものを設けて、ほかの取組を共有するような場があったらいいなとか、本当に多種多様な意見をいただいております。

池上会長 ありがとうございます。他いかがでしょうか。

椿副会長 度々すみません。1回目も2回目も、自分が今大学の一員であることを踏まえての意見なのですが、大学あるいは教育機関や事業所とのコラボなど、それぞれの異なる主体への意見も出ているので、今年度3回、全体を踏まえてまとめをされ、それに基づく提言に持つていかれる時に、市内にある大学や事業所に、直接、こういう意見があることを伝えられるといいのではないでしようか。

つまり、報告書としてこういうまとめができましたというだけだと例えばうちの大学でイメージしても、環境に直接的に関わる先生方が見てくれるかどうかも分からないので、私はたまたまこの場にいるので、お伝えしようと思っていますが、せっかくなので、直接伝えられる仕組みがあるといいんじゃないかと思ったのが1つです。

もう一つは、今、皆様方の意見にも出てきたんですけど、小学生とかは、例えば親子教室で、親御さんと一緒に参加いただくことが可能であるし、そういう機会もあるとは思うんですけど、中高生が、池上会長もおっしゃったように、地域の活動に参加する機会ってすごく少ないとと思うんです。大学生もまさにそうですが。で今回高校生が参加してくださったので、今後も、持続的に若者が自分の意見を柔軟に言えたり、発信できる場は大事だと思います。そんなことも今回ヒントになったんじゃないかなと思いました。

以上です。

池上会長 他いかがでしょうか。

橋本委員 参加された年齢、どういう分布になっているか分からないんですけども、まとめ方として、例えば大学生、何年間小金井に住んでいる方とは別に、結構年寄りで何十年もおられる方、そういう方たちの意

見、要望、そういうような統計の取り方があればいいなと思いました。

高野係長

ありがとうございます。事務局、高野です。今回年代については、10歳代から70歳代まで幅広く参加していただいております。特にコア層といいますか、30歳代の方が多く参加していただいているところです。

気候市民会議につきましては、橋本委員がおっしゃるとおり人数が少ないので、それぞれの居住年数であったりというところで分けるのは難しいかなと思うんですけども、また別途、この後説明する環境・みどりに関する市民アンケート調査というのも実施しておりまして、総体的な市の環境・緑に関する御要望はこちらで年代別でも、統計といいますか、取っておりますので、そういったところから御意見を取り入れられればと思っております。

以上です。

池上会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。  
ありがとうございます。

それでは、次に進みたいと思います。続いて（2）「小金井市地球温暖化対策地域推進計画見直しについて」ということで事務局から説明をお願いいたします。

高野係長

それでは、小金井市地球温暖化対策地域推進計画見直しについて説明いたします。最初に資料の順番が前後しますが、資料4の小金井市の環境・みどりに関する市民アンケート調査結果の速報版を報告させていただいた後、資料3の小金井市地球温暖化対策地域推進計画の見直し骨子案について、エヌエス環境さんから御説明をいただきます。

最初に私のほうから、資料4の環境・みどりに関する市民アンケート調査結果の速報値、速報版を説明いたしますので、資料4をお手元にお願いします。こちらの環境・みどりに関する市民アンケート調査につきましては、この審議会、令和7年度第1回の審議会におきまして、アンケートの内容について皆様に御議論いただきましたものを、市民の対象となる18歳以上で無作為に抽出した外国籍の方90人を含む3,000の方に、今回の計画の中間見直しにおける評価のため、環境・みどりについて日頃感じている意識・意向を把握することを目的に実施しました。

調査につきましては、期間としまして、1の(3)にありますとおり、6月25日から7月16日までの間、紙面やウェブでの回答という形でさせていただきました。

(4)の回答概要につきましてです。3,000人に対して回答数が1,078人ありまして、回答率が35.9%という結果になりました。前回が、同じく3,000人に対して944件で31.5%という回答率で、前回自体も3割を超える回答がございましたので、前回もすごく高い数字ではあったんですけども、それを上回る35%を超える回答がありまして、一般的にこういった無作為で行う回答調査につきましては、2割ぐらい回答があれば全体の統計が測れると言われておりますので、その中でも35%を超える回答率があったということは、小金井市民の環境、緑に関する意識が非常に高いというのがこの回答率からだけでもうかがえるところです。

参考としまして、下に年代別の回答率が書いてございまして、見て分かるとおり、やはり年代が上がるにつれて回答率は上がってきまして、特に60歳代、70歳代以上になりますと5割を超える方から回答をいただいております。

逆に20歳代、10歳代ではn数といいますか、発送数が少なくというところがあるので23%、20歳代になると15%と、回答率が少なかったことが課題かと思っております。30歳代が28%、40歳代33%と、年代が上がるにつれて回答率が上がっていったという形になっています。

今回、若い世代を主なターゲットにして気候市民会議を開催したところもあるんですけども、こういった若い世代がもっと興味を持っていただきたいというところが今回アンケートの回答率からも分かったところです。

めくっていただきまして、2ページがアンケート調査結果の概要になってございまして、性別、年齢、居住の住所、居住地域が2、3ページ目に書いてございます。

4ページが居住年数になっております。こちらが、あと居住形態というものになってございます。

その次のページ、5ページ目を御覧ください。こちらが身近な環境

の満足度を調査したものになってございまして、特に今回、主にしたかったというのが一番下に書いてあるところなんですけれども、生き物との親しみやすさで、まちの美しさにつきましては、環境基本計画の目標としまして、令和12年度の目標として、一番下に書いてあるそれぞれ55%というところを目標にしていたところではあったんですけども、令和元年度の数字と比較しまして、それぞれ44.8%と46%という数字から、64.8%、57.4%と目標の数字を上回っているという結果になってございます。

5年前の調査と比較しまして、それぞれ対象が違うので絶対な比較はできないんですけども、生き物の親しみやすさ、まちの美しさにつきましては、市民の皆様からそれぞれ満足いただいているのではないかという調査結果になっております。

続いてページをめくっていただきまして、6ページについてです。こちら、普段の生活を振り返って、小金井市の環境に優しい行動が取られていますかというような質問項目になってございまして、後ほど御覧になっていただければと思いますが、前回アンケート時と大きな相違はございませんでした。

続いて7ページを御覧ください。7ページが環境配慮型の機器の利用・導入についてというアンケートになっております。前回項目としてなかった断熱窓、遮熱塗装をアンケートに新規で入れたんですけども、アンケートの中で今回、今後導入したいという割合が高かったのが、断熱窓27.5%と遮熱塗装26%という形になりました、住宅の断熱化の意向がすごく、5年前は項目自体がなかったんですけども、今回のアンケートの結果では住宅の断熱化の意向が高かったのがこの結果から分かったところです。

それ以外にも、こちらのアンケートのグラフにあるんですけども、住宅用の太陽光発電システムが、例えばここが既に導入している方が7.5%になっているんですけども、前回の回答では3.2%でした。その1個下の蓄電システムの導入が、既に導入している方が6.2%という数字なんですけども、前回のアンケート時で2%という数字でございました。

なので、市や都が補助金を実施しているということもあるんですけど

れども、この5年間で着実に数字が増えているのではないかと思っているところです。そういったところもありますので、着実に環境配慮の機運は高まっていると思われます。

続きまして、8ページを御覧ください。8ページは環境保全への参加状況、市の取組の認知度についてというようなアンケートになってございます。環境保全について、参加したことがあるという割合が高かった活動につきましては、ごみ減量活動が36.1%、まちの清掃・美化活動が28.8%という結果でございました。前回のアンケート調査では、ごみ減量活動につきましては19.0%、まちの清掃・美化活動につきましては9.1%という回答でございましたので、それぞれ5年間たって参加したことがあるという数字が劇的に大きくなっていますので、こちらにつきましては、環境部のごみ対策課の活動も啓発活動をかなりしておりますので、そういったところが実っているのではないかと思っているところです。

参加したことはないけれども、今後機会があれば参加してみたいという回答があったのが、まちなかの緑化活動58.6%、地下水・湧水・河川の保全活動57.3%等でございます。50%を超える形で、参加したことがないが今後機会があれば参加したいというような形での回答をいただいておりますので、半数以上の方が潜在的に参加したいと思われているということですので、意識の高さがこのアンケート結果からうかがうことができます。

続きまして、9ページを御覧ください。こちらが、市が実施している環境・みどりに関する計画や取組、施設の一部についてアンケートを実施したものになります。アンケート結果につきましては、厳しい数字にはなっているんですけども、環境基本計画、みどりの基本計画について知っている、読んだことがあるということと、知っているが読んだことがないということの合計値が3割以上ではあったんですけども、小金井市の地球温暖化対策地域推進計画と気候非常事態宣言、令和4年1月に発出しました気候非常事態宣言を知らないと回答していただいた方が7割もあったという数字になります。

市としましては、特に気候非常事態宣言は大きく広報していたつもりなんですけれども、7割の方がまだ知らないという数字になってお

りますので、こちらの認知度の低さというところがありますので、こちらを改善していく必要があるのではないかというところがこの結果から分かるところでございます。

その下の環境・みどりに関する取組についてというところにつきましても、それぞれ環境フォーラム、野川環境フィールドワーク、省エネチャレンジ事業等につきましても参加したことがあるというところが10%未満となっておりましたので、こういった数字を上げていく必要があるというのがこの結果から分かります。

ただ、「知っているが、参加したことではない」という回答も多くありますし、知っている方にどう参加を促すかというところも今後の課題であると思っております。また、知らないと回答していただいた方がそれぞれ50%以上の数字になってございますので、いかに知っている層を増やして、知っていただいた上で参加をしていただくことを促すことが今後重要になっていくのではないかというのがこの結果から分かりました。

続いて10ページを御覧ください。環境楽習館という施設について知っていますかという調査になります。環境楽習館につきましては、「知っているし、利用したことがある」と回答した方が6.4%、知っているけれども利用であったり見学したことがないという方が22%、「知らない」という回答をした方が約7割いらっしゃいました。令和6年度に環境楽習館に指定管理者制度を導入しまして、昨年度は劇的に来館者数が増えてはいるんですけども、これからも市内全域にPRを強化していく必要があると思いますので、次回行うアンケートでは、この数字を増やせるような形で自主事業の展開であったり方策、取組を実施していきたいと思っております。

その下が、環境・みどりに関する補助金であったり制度についてのアンケート調査についてです。全体的に全ての希望者に対して補助を実施するというのは予算上難しいところではあるんですけども、まだ知らない方のほうが6割を超えておりますので、まずは補助をしていること自体を知ってもらうということが必要であると思いますので、こちらも市報、ホームページ等で詳しく、これからも継続して認知度を高めていく必要があるというのが分かりました。

続きまして、11ページにつきましては飛ばさせていただきます。

12ページが環境に関する情報提供についてということで、こちらも説明につきましては割愛させていただきますが、情報を知る手段としましては、やはり市報こがねいで知るという方が8割を超えておりますので、市報、特に昨年度リニューアルしているところになりますので、市報こがねいを見ていただいた上でホームページ等を見ていただくというところで、情報発信をしていければと思っております。

13ページの今後重視すべき取組につきましては、こちらの回答にあるとおりですので割愛させていただきます。

14ページ、小金井市の「みらい」の環境について、小金井市に残したい環境や大切にしていきたい環境は何ですかというところを5つ選んでいただいたところなんですけれども、やはりこちらの回答が6割超えているのが玉川上水や野川、仙川などの水辺の環境であったり名勝小金井桜の桜のある風景であったり、きれいな河川や湧水など、自然を大切にしたいというような声が多かったなという印象です。

続きまして、15ページです。15ページの環境保全に関する用語の認知度については記載のあとあります。こちらにつきましても、全体的な市の施策ではないところもあるんですけども、こちらも認知度を高めていければなと思ってございます。特に、環境基本計画の指標となっている気候変動への「適応」や、生物多様性の認知度というところを5年に一度見直すという形で計画に書いているところなんですけれども、こちら、それぞれ気候変動への「適応」について知っているかという認知度については、令和12年度の目標が50%だったのに対して、最初の令和元年度は25.3%、今回の調査では78.8%と、かなりの方が知っていたいているというような結果になりました。

また、生物多様性につきましても、令和12年度の目標として75%以上の方に知っていただきたいという目標を立てていたんですけども、今回の調査で、ぎりぎりではあるんですけども、75.4%の方が認識をしてございまして、やはり環境に対する意識が高まっている証拠なのかなということがこのアンケート結果からも分かります。

続いて16ページです。16ページにつきましては、みどりの施策

についてという感想についてです。こちらもみどりの質の満足度というところが今回、これだけは大きく下がっているところです。みどりの質の満足度について、令和元年度では「満足している」「やや満足している」と回答していただいた方が 67.8% いらっしゃったんすけれども、今回の結果では 47.5% と 20.3% 低下しております。こちらが質の話になってしまふので、それぞれ感じ方が違うところではあるとは思うんですけども、そういったところは改善していかなければいけないところなのかなというところが、こちらのアンケート結果からはうかがえるところです。

ただ、みどりの豊かさにつきましては、一番下のところで、目標 80% に対して、令和元年度で 72.0% であったものが令和 7 年度では 72.3% と、同程度ではあるんですけども、70% 台となってございます。こちらにつきましても、令和 12 年度の目標に向けて、80% の目標に向けて、みどりの施策を展開していく、満足度を上げる施策の取組を展開していく必要があるという結果になってございます。

続いて 17 ページです。17 ページの気候変動対策について、温室効果ガス、国が 46% 削減を目指してカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目標としているけれども、このことを知っていますかというような設問がございます。44.5% の方が知っていて、知らなかつたと回答したのが 43.5% でした。

それを踏まえて、2) の小金井市の現在の温室効果ガスの排出目標について、2050 年度の目標についてということでの質問を行いました。市では、中間目標では 2030 年度では 26% 削減を目標としていますが、2030 年度における小金井市の目標についてどのように考えますかというようなアンケート項目でございました。

こちらが、結果としましては、国と同じく目標を掲げるべきというのが 42.5%、現状の目標でいいというのが 38.8%、国以上の目標を掲げるべきだというのが 14.2% という結果になりました。現状の目標値が、ほかの自治体であつたり国と比較してあまり高いものではないという状況ではあるので、国と同程度以上の目標を掲げるべきだという回答がもっと多いのかなとは思ったんですけども、現状でもいいというような回答が 4 割弱いらっしゃったといった結果になりました。

ました。

18ページ、19ページにつきましては、気候変動の影響に備える適応についてどういった取組を行っていますかというようなものになってございますので、こちらにつきましては説明を割愛させていただきます。

17ページ下に書いてあります温室効果ガスの削減目標について、このアンケート結果を踏まえまして、今回、中間見直しで見直しするものにつきましては、国と同じぐらいの目標を掲げるべきというところを主眼に置きまして計画の数字を変えていきたいと考えているところです。

アンケート結果につきましては、私からは以上です。

エヌエス環境 続きまして、私から資料3番、小金井市地球温暖化対策地域推進計画見直しについて説明させていただきます。資料としましては、表に資料3と書いてある第1章から御覧ください。こちらは、小金井市の現行計画の見直しの資料となっていまして、現行計画によりますと、第1章から第3章の範囲の内容を更新したものとなっております。ボリュームがあるものとなっておりますので、項目についてかいつまんで説明させていただければと思います。

まず、おめくりいただきまして、2ページとなっているところについて。今回、ペンディングしている箇所がありまして、ペンディングしている箇所、2パターンあります。記載に変更がある項目、現行計画から見て更新したところ、あと、今後更新というところもペンディングさせていただいております。

まず初めに、第1章「計画策定の背景、計画の基本的事項」についてですけれども、2ページ目は「小金井市の気候変化」というところでして、2ページ目では小金井市の現状について、例えば、年平均気温の推移、また真夏日、猛暑日、熱帯夜の推移といったデータを現行計画から見て更新を行っております。

ページ、少々飛びまして4ページ。5ページ目、6ページ目はグラフを載せさせていただいているんですけども、こちらは小金井市で将来予測される気候変化について触れております。5ページのほう、お伝えしておりますのは、①が真夏日日数、②、降水量50ミリ以上

の日数について。こちら、国の気候変動適応情報プラットフォームというところへ掲載されている情報になるんですけども、こちら、現行計画から情報が更新されていましたので、併せて掲載しております。

③熱中症搬送者数、④熱ストレス超過死亡者数、こちらはデータ更新はないとされているので、現行計画からそのままとなっております。

ページ飛びまして、次に10ページ目について。こちらが地球温暖化対策に関する情報としまして、国の動向について、現行計画を策定以降、動きがありましたので、これについて内容の更新を行っております。持続可能な開発目標（S D G s）について、また11ページ、こちらでは気候変動対策の国際的な枠組み「パリ協定」、また、それに関連する2021年以降のC O Pについて記載を行っております。現行計画策定以降、2023年にI P C Cから評価報告書が公表されましたので、こちらについても、11ページの下のほうに記載の追加を行っております。

次に、12ページになります。国内の動向について。現行計画策定以降、国では温室効果ガスの削減目標の見直しがされました。以前の目標、26%から46%削減への見直しが行われましたので、そちらについて12ページのほうで記載しております。

次に、コラムのページを飛ばしまして、15ページについて。こちらでは上側で地球温暖化対策の推進に関する法律の改正、下側で気候変動適応法の改正、それぞれ法律の改正内容について、現行計画策定以降のものについて記載を行っております。

次に16ページに行きます。こちらが東京都の動向についてになります。東京都は今後の目標としましては、2050年、ゼロエミッション東京、また、2030年カーボンハーフ、こちらの2つの目標を掲げておりますので、そちらについて記載を行っております。

16ページの四角の3つ目になります。脱炭素化に向けた各種計画の策定等ということで、2050年ゼロエミッションに向け、東京都は各種計画の策定に基づく取組を進めていますので、それについてまとめた内容を記載しております。

コラムのページを飛ばしまして、次に19ページについて。こちらでは、小金井市の取組ということで、基本的には現行計画策定以降の

取組内容について具体的なものを示しております。

まず1つ目の四角で、削減目標の進捗状況について。現行計画では、温室効果ガス排出量、あと②で示していますエネルギー消費量について削減目標を掲げてみました。現在、東京都から小金井市に提供されているデータでは2022年が最新の情報となっておりますので、2013年から2022年についての進捗状況をグラフで示しています。

20ページについて、こちらは取組の状況、また現行計画でも示している指標の進捗状況についてです。20ページから22ページにわたって、現行計画の取組の項目3つあるんですけれども、その取組項目の3つそれぞれについて、関連する取組の内容、また指標の進捗の経過を示しています。中間年度値については、今ペンドィングにしておりまして、今後方針を行っていく予定です。

また、22ページの下側になりますが、気候市民会議の開催内容についても、その結果を取りまとめたものを掲載予定しております。また、気候市民会議、現在も開催中のものとなっておりますので、こちらは最後、結果が取りまとまってから内容は掲載していこうと考えております。

次に24ページになります。計画の基本的事項について。こちらは、計画の基本的事項として、計画の目的、それ以降のページ、位置づけや対象とする地域や主体、温室効果ガス、計画の期間と目標年度について示している項目になります。これについては基本的にあまり大きな変更はありませんので、多少、25ページに示している計画の位置づけなど記載内容、文言の修正などしているところはあるんですけれども、内容に変更はない箇所となっております。

次に、ページ飛びまして、第2章「小金井市の地域特性及び温室効果ガス排出量の現状」について。ページ番号については、22ページからとなっております。まず市の地域特性について、22ページで人口及び世帯数、23ページ、こちらは土地利用、24ページ、産業構造、25ページで緑化・まちづくり、26ページで再生可能エネルギーについて示しているものとなっております。また、こちらはそのままに、現行計画策定以降、データなど新しくなっている箇所があるので、更新を行うとともに、文章もそれに合わせて見直しを行っており

ます。

次に27ページになります。2番目の項目、温室効果ガス排出量の現状についてです。こちらは、小金井市の場合は、東京都から提供されている排出量のデータがありますので、それを基に更新を行っています。こちらのほう、細かな内容については割愛させていただきます。

次にページ飛びまして、49ページ目になります。第3章「温室効果ガス排出量の将来推計及び削減目標」について。こちらは、第1章で示しました温室効果ガスの排出量を基に、排出量の将来推計、また、それを基に削減目標を設定した資料となっております。

まず初めに、温室効果ガス排出量の将来推計として、(1)が対策を実施しない場合の将来推計を行いました。こちら、現行計画から見て、直近年度は2022年度に更新されていますので、まず、その直近年度を基に将来推計を行っています。表としては50ページに記載しているものになるんですけども、将来推計としましては、現行では行っていた2030年度に加えて、国が削減目標を示している年度に合わせる形で、2035年、2040年度、2050年度についても将来推計を行いました。

将来推計の結果としましては、小金井市、2030年頃まで人口増加が見込まれますので、2030年、2035年については、直近年度から見た排出量は増加となっているんですけども、それ以降は人口など減少していくのが見込まれていますので、2040年、2050年については直近年度よりも排出量も削減という見込みになっております。

次に、51ページについて、(2)対策を実施した場合の将来推計。まず51ページでは、国が地球温暖化対策計画というのを示しているんですけども、削減目標について、関連する対策を示しています。国と連携した削減対策を小金井市でも実施した場合、また、国で電気のCO<sub>2</sub>の排出係数、こちらは低減していくことが見込まれておりますので、この低減を見込んだ場合を基本的対策として整理しまして、削減見込み量の推計を行いました。どちらも2030年度までの見込みが国ほうで示されているので、小金井市についても2030年度についてまで計算を行っています。現在見込まれている削減量につきま

しては、2013年度基準では27.5%程度削減がこれによって進むと計算結果が得られました。

次に52ページ目、こちらが当市の独自対策を実施した場合。こちらについては、先ほど51ページで示しました国などと連携した削減対策とは別途に、小金井市の重点項目として示している対策、また、再生可能エネルギーの導入などを進めた場合を計算したものになります。

こちらは今後更新予定としていまして、ペンドィングになるんすけれども、こちらの計算結果なども踏まえた上で、今後、53ページ目以降で示していく、削減目標につなげていければと考えています。52ページでペンドィングとしている箇所については、現行計画にも示している重点施策などの見直しと併せて、内容の更新は行っていく予定です。

53ページ目、こちらが削減目標であります。削減目標としましては、温室効果ガス排出量について、また現行計画と同様に、エネルギー消費量の削減目標、また、新しく追加するものとして、再生可能エネルギー導入目標、この3つを立てる予定としております。

まず、温室効果ガス排出量の削減目標について、現在は2030年度、2050年度について削減目標を示しております、基本的には国と同じ水準としまして、2030年度は46%削減、また2050年は実質排出量ゼロを目指すものとして設定を行っております。国ほうでは、2035年また2040年に目標を設定しているんですけども、小金井市でもそちらの年度については目標を設定する予定にしておりまして、具体的な値については今後説明させていただこうと思っています。

小金井市として踏まえるべき目標としては、国の目標、また東京都の目標に合わせることが考えられます。ただ、東京都の目標は、国と基準年度、また削減目標の値も異なるものとなっておりまして、東京都では2030年度について、2000年度比50%の削減を掲げています。国と基準年度が異なって分かりづらいので、2013年度基準に直してみると、こちらは2013年度比で言いますと、2030年の56%程度削減を見込むものとなっていて、国よりも高い削減目

標を東京都は掲げているような状態となっております。先ほど、高野さんからも御説明ありましたが、小金井市、アンケート調査の結果などを踏まえまして、国と同程度にした方がよいという回答割合が高い状況となっておりますので、現状としては国の目標と合わせた目標としたいと考えております。

54ページになります。エネルギー消費量の削減目標について。こちらは、将来推計がまだ計算途中ですので、具体的な数字についてはペンドィングとさせていただいております。温室効果ガスの削減目標と見合う形でのエネルギー消費量の削減目標を立てたいと考えております。

最後、55ページになります。再生可能エネルギーの導入目標について。こちらも、削減見込み、将来推計の中で再生可能エネルギーの導入の項目がありましたが、それに合わせて導入量の数値は設定をしていく予定と考えております。

説明は以上になります。

池上会長 ありがとうございます。それでは、以上2つの資料につきまして質問、コメント等をお願いします。たくさんありますので、まずアンケートから行きましょう。アンケートから、質問、コメント等ありましたらお願いいたします。

私から1つ。アンケート、資料4では今回は速報値ということですけれども、最終的にどういう形でこの結果が見えるのかというのを少し教えてほしいです。一部、環境基本計画と関係のある部分は、令和元年度、これが前回なんですかね。5年ごとの計画ですけど、アンケートが6年前なのは何か理由がありますか。

高野係長 最終的には、年度末までにデータでの提供になりますが、報告書という形になります。

前回のアンケートについてなんですけれども、前回計画を策定したのが2か年計画で計画の策定をしておりまして、アンケート結果を踏まえて計画を策定したという経過がありますので、元年度に計画のアンケートを実施して、2年度に計画の主なところを審議していただいたということになりますので、若干アンケートの年度がずれているということになります。

池上会長 分かりました。ありがとうございます。今回の報告書の段階では、1個1個細かく前回との比較ができる形なのかどうかというのが分かりますでしょうか。

高野係長 今回、私が口頭で、前回はこうでしたという数字だけで述べたところもあるんですけれども、前回との比較というところがあると分かりやすいかなと思いますので、できる限り見られるような形を検討したいと思います。

池上会長 ありがとうございます。前回も申し上げましたけれども、このアンケート、小金井市が言っている環境教育の成果を見るすごく大事なツールかなと思っております。5年に1回なので、そこは少し残念ではありますが、もちろんお金がかかることですので、毎年やるのは難しいのかもしれませんけれども、市民の意識の変化とかというのが、まさに環境教育の成果だと思いますので、環境教育に取り組んでいることの結果を確認して、対外的にアピールできる一番の部分かなと思っております。そういう意味で、前回と比べてどう変化したのか、一部今回増えているのがありましたけれども、そういうところがすごく大事じゃないかなと感じました。

みどりの質のところだけが大きく下がっていますけれども、実際のアンケートの聞き方がどうかというのは存じ上げませんけれども、みどりの質って言われたときに、質って何だというのが正直な印象で、みどりの質はどういう基準で決めるかなって悩むかなと思いまして、悩んでいる時点で、どちらとも言えないという回答をすることもあり得なくないなと思いました。このくらいの十分な回答数のアンケート結果が出ているので、こんなに大きく違うというのは、ちょっと何か原因があるんじゃないかな。本当にこれは質を問えているのかどうかということも含めて、何か原因があるんじゃないかなというのは少し思いました。

そういう意味で、質というと、直近の取組が影響したりとか、全然変わってないということが悪く影響するとか、質を評価するってすごく難しいなと思いました。コメントです。

他いかがでしょうか。橋本委員。

橋本委員 やはり同じような感想なんですか、質のところ、どちらとも

言えないというのを合わせると、令和元年と令和7年で88%ぐらいで、ほぼ同じ。ただ、やや不満とか不満であるというのが低下したとか、そういうようなことが書かれてあるということなので、逆にこういうコメントが、前との比較で、特に例えばこういうような、かなり下がったとか上がったというところに関しては、グラフの比較とともに、何かコメントが少しついているとうれしいかなと思いました。

池上会長

ありがとうございます。そういう意味では、この部分の自由記述欄もきっとあるんだと思いますので、そこももしかしたら何か書いているのかもしれませんですし、それも含めて、今後また、速報じゃないものが出てくるということで。

高野係長

橋本委員からもコメントありましたとおり、コメントみたいのが、このアンケート結果を踏まえた講評みたいな感じということですね。そういったところもあると、ただ数字だけじゃなくてというところがお示しできるような形であればいいかなと思います。あと、自由記述欄については、今回速報値という形で一つもないんですけども、ぱっと見た感じ、緑に関して満足しているという回答が結構多かった。ただ全体的に緑も多い都市なので、そういったところは継続してほしいというコメントが多かったように見て取れました。

なので、そういったところのコメントも含めて見ると、会長がおっしゃったとおり、前回と比較してこんなに下がっているというところ、恐らく、前回と少しアンケートの調査の仕方が違っている部分もあるので、前回は2つに分けて出していたものを、今回1つにまとめて、環境・みどりのアンケートで実施していたところもあるので、分析必要があると思っております。

以上です。

池上会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。お願いします。

椿副会長

同じくアンケートで変化したところが気になって、こういう理由ではとのお考えがあれば教えてください。割合が高まった御指摘があったのが、例えば5ページの環境基本計画の指標として、生き物との親しみやすさとかまちの美しさがそれぞれ上がっていたと思います。8ページの環境保全活動も、先ほど高野さんの御説明の中では、清掃活動とかごみ減量活動の割合が高まったという説明だったと思いますが、

高まった理由として考えられることがあれば教えてください。

以上です。

高野係長

高まったところ、特にごみの減量活動についてなんですかけれども、説明の中で少しさせていただいたんですけれども、やはり同じ環境部のごみ対策課の中で、今回、ここのメタウォーターの施設もそうなんですけれども、かなりワークショップ等も実施していたり、リサイクル関係のワークショップも、もう一つある野川クリーンセンターで夏休み、子どもに向けた事業も実施していたり、食品ロス削減に向けた協力店との取組とかも実施しているところもあるので、ごみ減量活動については特にそういったところがあって、市としても幅広にやっていることがつながっているんじゃないかなとは思っているところです。

椿副会長

ありがとうございます。5ページのほうは何か想定できることはありますか。

高野係長

生き物との親しみやすさ、まちの美しさについてなんですかけれども、ここがなかなか、具体的でない設問というところもあるので、なぜここまで上がったかというところの分析が難しいところではあるんですけれども、ここについても少し分析させていただいてよろしいでしょうか。

椿副会長

もちろんです。ありがとうございます。また、何か分かりましたら教えてください。ありがとうございます。

池上会長

他いかがでしょうか。田頭委員、お願いします。

田頭委員

まず、住宅の断熱化についての関心がすごく高いということが7ページ、環境配慮型機器の利用・導入についてというところで見えてきたと思うんですけれども、これは前回は項目にそもそもなかったのでというところはありますという御説明でしたけれども、今後導入したい割合が高かった断熱窓、遮熱塗装、住宅の断熱化の意向が高かったというあたりは、これを受けて、何か市としては、次に取組なり計画への反映なりというところで考えていることがあれば、それはお聞かせいただきたいなと思ったのが1つです。

あとは、今の16ページのみどりの施策についてのところなんですかけれども、質の満足度が20.3ポイント低下したということは、やっぱり設問の仕方とかそういうことにも関係するのかもしれません。

私がちょっと気になったのは、14ページのほうで、小金井市の「みらい」の環境というところで、玉川上水や野川、仙川などの水辺空間について残したいということで、大事だと考えている方が非常に多かったということは、やはり小金井らしいなという感想を改めて持ちました。

それから、次いで多かったのが名勝小金井桜など桜のある風景というところやきれいな河川や湧水というところが高かったところと、何かもしかしたら関係しているのかなとも感じたんです。というのが、やはり野川などは環境としてとても大事だし、利用している方たちが多いということと、野川の環境、清掃活動などへの関心も高かったということも併せて考えると、その辺が緑の質というところと、もしかしたら関係しているのかな。

今ちょうど都市計画道路ができて、もしかしたらこの辺の環境が損なわれてしまうということに対しての懸念というようなものがここに出てきたのかなとか、あるいは名勝小金井桜も、桜のある風景はいいことなんだけれども、玉川上水に関して言えば、激変したことは、桜以外の木が全然なくなっちゃったことなんですね。そこはやはりだんだん周知されてきていて、市民の方も、えつ、あんなふうになっちゃったの？という声は身近にも聞かれているところです。そのことがみどりの質ということと関係しているんじゃないかなとか、結局ほかの木がなくなっちゃったので、日当たりが良すぎて、移植した桜の幼木が結構枯れてしまっているというような、影響していることも実際に起きてきてますので、そういったこととも関連するのかななんて感想としては思ったんです。

その辺は環境政策課だけの取組ではないんですけども、その辺り、所管課として感じておられることとか、連携が必要ということでの必要性とかは感じておられるのかどうかという辺りをお聞かせいただければと思いました。

以上です。

高野係長

ありがとうございます。では、最初の御質問いただきました断熱と遮熱塗装についての今後の取組の考え方というところでございます。こちらにつきましては、住宅の新エネルギー機器の補助金になるんです

けれども、令和3年度に断熱窓を補助メニューに追加、令和6年度に遮熱塗装を補助メニューに追加しております。それも、毎回補助金を活用された方に対してアンケートを実施しておりますが、要望が高かったニーズがあるものをメニューに追加しているというところもありますので、追加したメニューを継続して補助メニューとして残していくことを考えております。

住宅用新エネルギー機器の補助金について、2,000万円規模で令和6年度も実施したんですけども、令和7年度については6月中旬に上限に達してしまったということがありまして、昨年度は7月下旬だったんですけども、補助金額を上げてもどんどん早くなってしまっているような状況であるので、新エネ機器の補助金についての見直しも検討しなきゃいけないところではあるんですけども、そういう中でも、人気がありますというか、メニューについては継続してやっていくことを考えているところです。

逆に、太陽熱ソーラーシステム、太陽熱温水器については、既に導入されている方もあり多くなく、1.5%であったりという状況があり、年間一件もないような状況もあったりするので、補助メニューを簡略化といいますか、市民の方がニーズがあるものをやっていったほうがいいかなと思いますので、例えば太陽熱をメニューからなくして、人気がありますというか、ニーズがあると考えられる断熱窓、遮熱塗装を幅広にやっていくことも考えられるのかなと。来年度のことになるので、これから金額であったり、それぞれの上限額を考えていくところにはなるんですけども、この結果を踏まえて検討していくことを思っております。

以上です。

岩佐課長 16ページのみどりの質のところでございますけれども、今回と前回と調査の仕方が変わったところも影響しているかもしれませんし、詳しくは今後分析していきたいと思いますけれども、どちらとも言えないというパーセンテージがかなり、今回は41.6%、前回が19%ということで、誤差の部分もあるかと思いますし、あと考えられるのは、ここ最近、3年ぐらい地球温暖化の関係でかなり気温とかも高くなってきていて、公園とか緑地、御自宅もそうだと思うんですけど、

かなり雑草とか草が伸びるスピードもアップしているという部分ももしかしたら影響しているのかもしれませんし、あと最近、台風の影響とかもありまして、倒木とかのニュースもありますので、そういうしたものも市民の方は感じられているのかなというところも影響しているのかなということで、考えられる一つかなと思いますけれども、詳しくは、もうちょっと詳しく、自由記入欄を含めて分析はしていきたいなと考えております。

以上です。

田頭委員 分かりました。ありがとうございます。

池上会長 他いかがでしょうか。

では、もう2点よろしいですか。可能なら最後の段階でお願いできたらいいなと思うのは、7ページの環境配慮型機器の普及状況、ここ、自動車は別ですけれども、それ以外の部分は戸建てか集合住宅かで大分入れやすさも違いますし、自分のところ、借りているのに、窓がどうなっているとか設備部分ってあまり気にしてない方も多いと思われる所以、そこを分けた割合の見せ方というのを考えてはいかがでしょうか。戸建ては戸建てでどういう割合になっているのか、集合住宅は集合住宅でどういう割合になっているかというのが見えると、もう少し詳しく見れるんじゃないかなと思いましたので、今回4ページに戸建てと集合の割合が分かれています、戸建て55%という状況の中で、断熱窓が49.5%。49.5%だと半分ぐらいにしか見えないですけれども、戸建ての人だけで考えると、もしかしたら80、90%ぐらいになっているかもしれない。そういうのも見えてくるかなと。

賃貸の集合住宅にお住まいの方が今後導入したいというのはなかなか選びづらいかなと思いますので、戸建てと集合住宅を分けたグラフになるといいなというのが1つです。

もう一つは15ページの用語の認知度で、令和元年度の段階で25.3%という数字がそうだったのかもしれませんけれども、言葉は知っていたけど意味は知らなかったという状況を認知としていいのかどうかというのはちょっと考えてもいいのかなと思いました。聞いたことあるけど何かよく分からぬという状況で終わっていいのかということを考えると、やっぱり青色の「意味を含めて知っていた」部分

を高めていく必要があるのかなというところで、そちらを指標にするというのもあるのかなというのが1つです。これも検討していただければありがたいです。

高野係長 分かりました。ありがとうございます。最初のところと2番目のところ、2つともまた検討させていただきます。

池上会長 他いかがでしょうか。それでは、アンケートの方はよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、もう一つの資料3について何かございますでしょうか。

和田委員 御説明ありがとうございます。温暖化対策のほうで結局、最終的な姿というのに個人的に非常に興味があって、聞かせていただいていました。

一番大事なところは52ページ以降になるのかなと思っていまして、52ページの下側にある表、2040年、2050年というのはまだ先の話なので、2030年というところが削減目標として定量的に入ってくる部分になってくるので、ここが非常に大切なのかなと。52ページ目の下の表で、今の推計いただいている形で、2030年で何もしなかった場合、ベースラインが314.1(千t-CO<sub>2</sub>)。まず、国のほうで進められている、あと電気の排出係数が下がってくるという部分がマイナス79.9(千t-CO<sub>2</sub>)、国と連携することになる分がマイナス16.9(千t-CO<sub>2</sub>)、基本的対策と独自対策って分けられているのはすごくいい見せ方だなと思っています。この独自対策、ここが小金井市として注力すべき部分になってくるんですよと読み取りました。再エネの導入の分がマイナス19.9(千t-CO<sub>2</sub>)、その他の独自対策でマイナス7.4(千t-CO<sub>2</sub>)、これを積み上げて、2030年度、マイナス46%を目指しますよという表になっていると理解しました。

独自対策というところが一番市の皆さんにも知っていただきたいところになってくるのかなと思っています。再エネのマイナス19.9(千t-CO<sub>2</sub>)、約2万トン分の削減というのはどれくらいのインパクトになるのかなというのが一番知りたかったところなんんですけど、26ページに、これまでの小金井市の太陽光発電の導入容量が大体23年まで8メガワットぐらいですかね。これを30年までにどれぐら

い積み上げられるかというところに尽きるのかなと思うんですけど、これが家庭用の太陽光だけなのか、ほかにも、どこかメガソーラーとかが入っているのかというのは読み取れなかつたんですが、まさにそれが 55 ページ目に入ってくる目標のワット数になると思うんですけど、大体どれぐらいの発電容量になってきそうなのかというところで言うと、まだ計算中ですかね。

エヌエス環境 そうですね。まだ計算中のところがありまして、ただ、小金井市の再エネに関して、基本的には大半が住宅用の設備になります。ポテンシャルとして見たときも、小金井市は住宅用のものが多くなっていくので、そのところがどれだけ入れられるかというのが重要になってくるかなと思っております。

和田委員 承知しました。ざっくり、仮に 2030 年で 20 メガワットぐらいいくと、それでも数千トンレベルなのかななんて今、簡単に計算してみて思ったので、再エネで 2 万トンを稼ぐというのがもし厳しそうであれば、独自対策というところが大事になってきて、かつ 54 ページ目に省エネの目標というところもし立てられるということであれば、エネルギーだけじゃなくて、省エネしたら  $\text{CO}_2$  も減ることになりますので、省エネ、再エネ、あとその他独自みたいな感じで、3 つぐらいに分けたほうが現実的なポートフォリオになってくるんじゃないかなというのがちょっと感じたところです。ありがとうございます。

あと細かいところなんんですけど、50 ページ目の表で、2040 年ですか、増減率がいきなりぼこって一番下が上がっているんですけど、これはマイナスが抜けているだけですよね。

エヌエス環境 そうですね。ここはマイナスが抜けている状態です。

和田委員 承知しました。よろしくお願ひします。

以上です。

池上会長 ありがとうございます。関連して。市独自の対策というところが、前回の温暖化対策地域推進計画策定のときにもかなり苦労したところで、今日お手元にあるオレンジ色の冊子が前回のものなんですけれども、市独自の取組の分がオレンジ色の冊子の 41 ページ、1,900 トンだったんです、2030 年までに。これを 2 万 7,000 トンというところが本当に可能なのかというのはすごく難しいところかなと思つ

ていますし、市独自の取組の切り分けがどうしても難しくて、市役所がやっていること、市役所の政策としてやって、それによる削減量を積み上げているという時点で、量的に見えるところではかなり苦しくて、前回の1,900トンというのは、補助金を出している家だけ、あるいは省エネチャレンジに参加した世帯だけ、これを積み上げた結果が1,900トンということだったんですね。

ですので、それ以外の人が取り組んでいる省エネは、全て国等と連携して減らした方に全部入ってしまうという、そこがどうしても市の取組が小さく見えてしまう原因になります。市民が頑張っていても、それは市役所の取組じゃないということになります。独自の取組の中には入ってこないというところは積み上げだと難しいところで、ここを見て市独自の取組の成果を議論していても、結局ほかのところ、電力の排出係数の変化の影響がどうしても大きくて、そっちによって全体が増えた減ったが効いてきてしまって、市の取組のところはもう評価がされないところになってしまい、そこがすごく難しくて、この数字が出たときに、翌年以降、環境審議会でどういうふうに結果を見ていくのかというところがすごく悩ましいところであります。そういう意味では、これはまだ色がついているから仮の数字と考えてよいでしょうか。

エヌエス環境 そうです。

池上会長 そういう意味では、国等と連携というところが少し小さくなって、基本的対策となったところが、これも小金井市に関係しているんだというのが見えるようになったところはよかったですけれども。

実際どういう統計データを扱って評価しているかとつなげて見ていくといいなというところをすごく思いましたし、エネルギー消費量の削減目標、これ、1次エネルギーの削減目標なんだと思うんですけども、これもどういう統計資料から算出して見えてくるのかというので、結局、市独自の対策で、例えば省エネをしました、省エネチャレンジ、それは数世帯だけですよね。

では、その世帯の分を計測して結果が出てくるかというと決してそんなことはなくて、結局市全体の統計量から評価することになるので、分ける意味がどこまであるかというのは、市の政策の結果なのか、で

も、これは市の政策の結果というよりも、市民の取組の成果を見るところかなと思うので、ここで、市の補助金を出した世帯だけをカウントするとかそういう方法ではなくてもいいのかなと思っています。

例えばエネルギー消費量が出てくるのであれば、そこから省エネの効果としてどのぐらい、みんなが省エネをこのぐらい進めるとCO<sub>2</sub>の削減にはこのくらい効いてきますよとか、評価するときの統計量とつなげて数値が出てくると、後からの評価もしやすいですし、市民としての取組全体が効果として見えるところかな。

そういう意味では、どうしても人口増による分とか、そういうところは省エネとは反対の方向に行きやすいですけれども、本当言うと世帯当たりとか、何かしら別の指標でエネルギー消費量が見られるといいなとは思います。一方で、以前から聞くほかの自治体との比較みたいなものになってくると、そういうのじゃなく全体論になって、それは繁栄した市が負けてしまうような数値になってしまふところもあるし、すごく難しい数字だなと思っています。

和田委員 私も同じく会社で目標設定の話をしょっちゅうやるんですけど、実際、例えば小金井市さんの場合だと、2030年の目標を立てても、30年のCO<sub>2</sub>が出てくるのは2033年なので、数字にめちゃくちゃこだわってやるというのもなかなか厳しい話かなと。どっちかというと、目標を設定することでどういうバリューが生まれるんですか、何が連れてこられるのという意味でいくと、数字を達成した達成していないということよりも私は、この目標を設定する意義というのは、小金井市の皆さんの行動を変える、同じ方向に向けるということが、そもそもこの目標設定の意味なのかなと理解しています。

そういった意味でいくと、今池上さんがおっしゃったとおりで、市民に対する期待値はここですよというのをできるだけ分かりやすくするという意味で、こここの分け方は、確かに表現にはもうちょっと余地があるのかなと思います。なので、再エネ導入でこれだけ、省エネでこれだけ、しようがないよね、2030年までってあまりできることがそもそもないので、トヨタさんとか大手の自動車会社さんも、CO<sub>2</sub>の削減のカーブって2030年までは大体横ばいなんです。横ばいで、2030年以降にがくっと減らすというカーブにみんななっています

から。なぜなら、2030年まで合成メタンも来ないですし水素も来ないので、2030年以降しか来ないので、基本的に2030年までってあんまりできることがないというのが我々の中では常識になっています。

なので、2030年までにできることは本当に地道な省エネと太陽光、再エネなんですよね。なので、そこの部分で構わないので、古い家電の買換えをお願いしますじゃないですけど、そういう期待値を伝えやすいような目標を設定するというのがいいんじゃないかなと個人的には思っています。

以上です。

池上会長 ありがとうございます。他いかがでしょうか。

椿委員、お願いします。

椿副会長 小金井という地域の実態を踏まえた再エネとか省エネの目標設定であり、できることは何かが大事だと思います。資料の第2章に、これは前回もそうなのですが、小金井市の地域特性で、人口動態とか土地利用、その他データを出していただいている。例えば気候市民会議の前半の話にも出てきましたが、小金井は人口が増加しつつ転入者が多いという意見が幾つかありました。

つまり、ここに出している統計プラスα、単なる地域の概要というだけでなく、再エネ、省エネ、気候変動に最終的につながるような取組と関連づけて説明を記載いただくといいのではという点と、小金井市の場合、宅地が87.3%と大きな割合を占めていることが、今までの議論にもあったとおり、再エネ、省エネの在り方と非常に関わってくる。

アンケートにも出てきましたが、戸建て55.3%で集合住宅37.5%、かつ、こちらの資料で単身世帯の割合が増えているので、恐らく駅周辺の高層マンションをはじめとするマンションがかなり増加していることが反映していると思うんです。

戸建てじゃなくマンションの省エネ対策、再エネの在り方は、戸建てとは違ってくる部分があるかと思うので、そういうことまでもう少し踏み込んで、人口動態で言えば、転出入者数という形で、恐らく転出される方も当然いると思うので、転入者がどのくらい多いのか、そ

のことは先ほど意見にあった情報提供の在り方とも結びついてくると思うんです。補助金の情報提供の在り方とも関わるので、データの出し方を再エネ、省エネ対策ともうちょっと結びつけた形で出していただきたい。説明もそういう観点で少し踏み込んで書いていただくといいんじゃないかなと思いました。

以上です。

池上会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

先ほど、前回の計画を見ていたんですけれども、資料版の41ページに、国等と連携して進める効果、具体的な計算方法が書かれています。こういう形で個別に見積もっている部分があると思いますので、省エネによって幾ら、どういう機器の導入で幾らというのをきっと出せるのかなと思いますので、これ、国等と連携して、国が補助金を出しているということもあるでしょうし、小金井市が補助金を出しているということもあるでしょうし、これが市民が取り組むことなので、ここがもう少し具体的に何をやるかが見えてくると、市民が何をやればいいのかが分かるのかなと思いました。

岩佐課長

先ほど池上先生、和田委員、椿先生から御意見をいただきましたので、どういった見せ方がいいのかというところも含めて、もう一回事務局で検討したいと思いますし、ロードマップみたいなものも今後つくる予定ですので、そこら辺でもうちょっと市民の方に再エネ、省エネをしてもらったらどのくらいCO<sub>2</sub>が減るのか、そこら辺も含めて参考してみたいと思いますので、この計画自体、市民の方からしてみると分かりづらい部分もございますので、なるべく伝えられるように、見せ方とか表現の仕方とか、どのように入れるとか、そこら辺もちょっと工夫して、他市の事例とかもありますので、そこら辺を検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

池上会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。  
ありがとうございます。

それでは、議題の3番に行きたいと思います。（3）の環境報告書について、事務局から説明をお願いいたします。

田山主事

それでは、資料5、環境報告書令和6年度版（案）について概要を説明させていただきます。最初1ページから6ページの第1章「はじ

めに」について、前年度と内容に変更はございません。

次に、7ページから46ページまでの第2章「基本計画の進捗状況」について、7ページに取組指標、評価についての記載があります。こちらに特に変更はございません。8ページ以降に、各基本目標等と基本施策の記載があります。以前は環境保全指針計画に記載のある取組を全て羅列し、記載しておりましたが、文字が多く見づらいため、昨年度の報告書から、環境保全実施計画に記載のある取組の一部を抜粋して記載するように変更しております。

42ページからの第3章「市役所としての取組」については、令和6年度に行った内部環境監査の結果、環境行動チェックリストを活用した環境行動の実施について、グリーン購入活動の実施、ごみゼロ化行動について記載しており、大きな変更はございません。そして、48ページから53ページまでの第4章「地球温暖化対策」については、後ほど荻原主査から、資料6の温暖化対策実施計画と併せて御説明させていただきます。

続いて、54ページからの第5章「点検評価結果」及び61ページ以降の資料編については構成の変更はありません。

全体の構成については以上となります。環境報告書（案）については、審議時間も限られていることから、御質問、御要望等ございましたら、参考資料としてお渡ししている意見等記入用紙に御記入の上、事務局まで9月2日火曜日までに御提出いただければと思いますので、御協力よろしくお願いします。なお、環境報告書令和6年度版データと参考資料、意見等記入用紙は本日の審議会終了後にメールでお送りさせていただく予定です。

雑駁ではございますが、以上となります。

池上会長 ありがとうございます。それでは、内容以外に何か御質問ありますか。よろしいですか。それでは、意見等記入用紙、後ほどファイルもメールで送られてくるそうですので、そちらに入力いただくか、配付のものに手書きするということで、よろしくお願いいたします。

それでは、続いて、（4）の「小金井市地球温暖化対策実行計画（市役所版）見直しについて」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

荻原専任主査 資料6を御覧ください。先ほど説明がありましたけど、小金井市地球温暖化対策地域推進計画というのが小金井市域全体でCO<sub>2</sub>を減らしていくという目標の計画なんですけれども、小金井市役所としましても、市内にある一事業所として、公共施設においてCO<sub>2</sub>を削減していくという目標をこちらの実行計画（市役所版）というもので策定しております。現行の第4期の実行計画が令和3年度から令和7年度、今年度までの5年間を計画期間としておりまして、この5年間で平成元年を基準年度としまして、その基準年度よりも7.6%のCO<sub>2</sub>を減らすという目標を立ててございます。最新の令和6年度の速報値が出ましたので、併せて御報告させていただきます。

資料5の環境報告書の48ページから実行計画の数字、速報版ですけれども、出ております。一応各課からもらった数字で出した数字なんですけれども、この後、各課にまたヒアリングだったり数字の確認をしてもらいますので、多少の変化はあるかもしれません、取りあえず各課から出してもらった数字に基づいて出した速報値となっております。令和6年度の数値としましては、前年度の令和5年度よりも0.5%数字が削減されまして、基準年度よりも1.1%の削減となっております。

ただ、この削減目標値は、今年度が最終年度なので、今年度しっかり頑張らなきゃいけないんですけれども、7.6%、目標値を掲げております。今年度が基準年度よりも1.1%ということなので、数字だけ見ると昨年の7倍、今年度頑張らないと目標達成にならないという状況なので、大変厳しい状況になっておりますが、引き続き全庁を挙げて省エネ活動に取り組んでいきたいと考えております。

現行の計画が今年度で終わってしまいますので、来年度からの小金井市地球温暖化対策実行計画の第5期目の策定に今取りかかっております。計画の目標期間だとか目標数値というのは、ある程度地域推進計画に沿って立てていく必要がございますので、地域推進計画の目標数値とか進捗状況を見ながら策定していくことになりますが、前回の第3期の計画でも、計画年度は期間が6年間でしたけれども、6年間で14.7%削減するという目標を立てまして、結果としては15.3%増えたということで終わっております。

今回の 7.6% 削減するという目標に対しまして、現在 1.1% しか減っていないので、目標達成は非常に厳しい状況になっております。だけれども、また次の第 5 期に関しましても、地域推進計画の数字も上がりますので、それに沿った感じで、かなり厳しい削減目標値を掲げていかなきやいけないのかなと思いますが、なかなか目標達成が厳しいという状況の中で、次期計画を策定していくことになっております。

一応、スケジュール案を資料 5 の一番後ろにつけてありますので、こちらの審議会は、次回 10 月開催を予定しておりますが、そこでたたき台を出したいなと考えております。それから、その後の 11 月、1 月、3 月の審議会に諮りまして、最終的な計画策定につなげていきたいと考えてございますので、またその際は御意見をいただければと思います。

簡単ではありますが以上です。

池上会長 ありがとうございます。それでは、質問、コメント等、よろしくお願ひいたします。

和田委員 御説明ありがとうございます。私、市役所の予算の手続というのは全然理解してないので恐縮なんですけど、来年度減らしていくためには、LEDを入れるにしても、高効率機を入れるにしても、予算取得というところを、それぞれの施設の皆さんに御協力いただきやいけないというところだと思うんですけど、予算の申請のスケジュールというのは、来年の予算というのは何月頃申請されるのか、市役所のほうで。

高野係長 市の予算につきましては、おおむね 10 月の末ぐらいに各課の予算案を財政課に提出して、財政課で査定をして、1 月の下旬ぐらいに内示が出て、3 月の議会で審議をしていただいて、それでよければ可決するという流れになります。なので、一番最初の前段の 10 月の財政課に提出するまでにどれだけ予算案を練られるかというところが、まず各課のポイントとなります。

以上です。

荻原専任主査 今年度取り組まなきやいけない予算はもう決まっちゃっているので、その中でやらなきやいけない中で、今言ったように、去年の 7 倍頑張

らないと目標を達成しないという状況なのはかなり厳しいというところですが、やれることを積み上げていくしかないで、その辺は全職員を挙げて頑張っていきたいと考えております。

和田委員

そうすると、来年3月にできるこの計画というのは、どっちかというと、再来年分の予算申請に向けたぐらいの感じですよね。ありがとうございます。

池上会長

これもこれまでいろいろと見てきたところですけれども、毎年の数値というのは、新しく施設ができると、どうしても悪く見えてしまうというところがありますし、活動量が変わって、コロナ禍と変わつてきているところがあつたりすると思いますので、数値だけを見ても、減っているからいいのかというと必ずしもそうではないところもあるかもしれない、例えば総合体育館とか増えていますけれども、総合体育館を使ってくれる人が多くて、それで熱中症対策でエアコンを使って、それは決して悪いことじゃないと思うんですよね。CO<sub>2</sub>を排出するから我慢しましょうって、そういうことにはならないと思いますので、数字を見て、上がった下がった、増えた減ったということよりは、どういう対策をしたのかということを毎年記録していくというのはすごく意味があるんじゃないかなと思います。

ここはLED化しました、今、LED化率、この施設は何%ですか、ここはこういう省エネ機器を入れましたとか太陽光発電を入れましたとか、そういったことが記録として残っていくと、うちの施設はLED化率がまだ低いなとか、他の施設はこういうことをして省エネしているのか、じゃ、うちもそれをやってみようかとか、そういうのが施設間でも起こってくるかもしれないですし、数字だけ見て、増えているから駄目というわけではないですし、減っているからそれでいいのかというと、必ずしもそうでもないということで、何をしているかというのが具体的に見えたほうが、他の増えているところを減らす対策につなげやすいのかなというのは感じました。

CO<sub>2</sub>の排出量ですので、エネルギー消費量と厳密には直結しなくて、例えば電気も排出係数の安い電気を買うと、それで少なくなっているように見える。そういう意味で、先ほどおっしゃっていましたけれども、職員が頑張ってできることと、お金を使って設備を入れて削減で

きるところとあるのかなと思いますので、省エネ設備にどういう設備を入れたのかというのが見えてきたほうが、これは先ほどの市民が何をやればいいのかというのと同じですけれども、うちの施設はLED化をもっと進めなきやいけないというところが出てくるかなと思いました。いつもの前原の施設はこの表にはないですか？

荻原専任主査 集会施設の中に入っています。

池上会長 集会施設の中に入っている。

荻原専任主査 はい。

池上会長 あそこは、LED化されてなかつたような気がしました。そういう意味では、まだまだLED化できるところってきっと残っていると思いますし、されているところ、されてないところの違いも見えると、ここはLED化を進めてくださいということも言えると思いますし、職員さんの努力でできることではない部分もいっぱいあるんじゃないかなと思いましたので、そういうところがちゃんと進んでいけば、全体が増えているても、それは悪いことでは必ずしもないで、増えているから悪いよと見えるのも、職員さんにとっては、頑張って節電していても、その効果が見えなかつたらモチベーションが上がらない。

荻原専任主査 そういう意味では、2027年に蛍光灯が製造中止になるということも踏まえてなんですが、市の公共施設、全部LED化するという予算、今年取りましたので、徐々に市の公共施設、LED化のほうで進んでいって、今年度で終わるのか、来年度までかかるのか分からぬんですけども、近日中に全館LED化になる予定でいます。

あと、今回の目標数値を設定するに当たりましては、また、いろんな要素があるので考えなきやいけないんですけども、当然やっぱり計画期間の中で、公共施設、新しいのが建つとかということはそうそうないんですが、実は今回の第4期の計画をつくっているとき、5年前なんですが、その段階では、市の新しい庁舎が令和6年度に完成するという予定だったので、7年度1年間、どのぐらい電力等かかるのかというのを見た上で8年からの新しい計画をつくれたらいいねということで、計画年度を今年度までにしていたんですけども、御存じのとおり新しい庁舎、またいつ建つか分からなくなっている状況なので、そういうこともあって、次の計画期間の中で、またひょつ

としたら庁舎が建つんじやないかとか、それか、もう建たないんじやないかという、そういうのもあったりするので、どうしても目標を立てても、その間に施設の増減があったりすると、大きくそれによって左右されてしまうところもあるので、なかなか目標達成というところは苦しいところではあるんですけども、いろんなことを考えながら、また目標数値は設定していきたいと考えております。

池上会長

ありがとうございます。そういう意味では、市の設備、職員さんが直接活動していらっしゃる市役所はもちろんそうですけれども、そうではない、市民自体が使う施設もたくさんあるわけで、小学校、中学校、体育館、いろいろあると思いますけれども、そういうところを節電しようとするとサービスの低下ということになるので、そうではなくて、節電ではない省エネをしようと思うと、どうしても設備の入替えって大事になってくるので、本当に市民にとって節電してもらうことがいいのかというと、必ずしもそうじやないと思いますので、目標のときにも、どういう設備に替えていくかという方向性が見えると、先ほどの市民会議のところでもありましたけれども、市として市役所はどうしていくのかというところで市民に対して見せていく、市役所はこういう設備を入れていってますよ、というところが見えていくと、ああ、なるほど、そうしていく必要があるのかという行動の方向性が市民にも伝わりやすいかなと思いますし、例えばLED化施設は、ここはLED化していますよということを入り口に示しておくと、市民の人たちはここに来て、ああ、ここはもうLED化しているんだとか、そういうのに触れることもできると思うんです。市の設備もうまく設備の入替えを活用できたらいいんじゃないかなと思いました。

岩佐課長

資料5の環境報告書の52ページ、市の公共施設の関係で、前年度に対する増減対比は載せているんですけども、あくまでここは数字だけですので、今後、ヒアリングとかを含めてやっていって、各課でいい取組とかLEDを導入してどのぐらい減ったとか、そういったところも、池上会長がおっしゃるとおり、市民の方に示していければなと思っていますので、来年度以降、環境報告書に載せるのかホームページに載せるのか検討はさせていただきたいと思いますけれども、市の取組の中で、市民の方にまねしてもらいたいようなものがあれば、

PRできるような形で考えていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

池上会長 ありがとうございます。他いかがでしょう。

田頭委員、お願ひします。

田頭委員 今、池上会長が言われたようなことですよね。やはり市がこれだけ頑張っていますよということが市民に見える化するということが、市民のまた環境行動を促していくということは、そういった視点、すごく大事かなと思いますので、その辺も含めて幾つか質問したいんですけども、市役所が頑張っているということが見えるように表現していただきたいということと、その前段で、今現状どうなっているのかということの確認です。

以前はまだその気候非常事態宣言が発出される前だったと思いますが、いっとき市役所からの排出されるプラごみなどが、市内全体でのプラごみは減っているんだけど、市役所から排出されるごみは増えてきたっていうことがあったと思います。

なので、現状はどうなっているんでしょうか。

かつてはこうだったけど今はこうだよっていうことを知っておきたいなと思いました。

それから、3ページのところには、自動販売機の削減及び省エネ型への転換を図りますっていうところがあるんですけど、これ自動販売機については、新しくできる公園の公園管理のところでは、自販機は新しいものは作らないっていうよりはむしろその省エネ型に変えていくことで、削減していくっていうご説明があったと思うですが今、現状ではどうなんているのかっていうことを伺っておきたい。

その庁舎からのゴミ対策は4ページにも載っていて、私物ごみの持ち帰りを徹底しますっていうところで、結局、ペットボトルとかお弁当パックなどのごみが、かなりあったと、当時は。それは結局、外から運び込んでいる、庁舎内の業務におけるごみではなくて、外から持ち込まれた持ち込みごみだっていうようなね、ことも、ご説明の中であつたと思うんですけども、今現状はこの辺はどうなのかっていうことで。

それから、6ページには、高断熱が二重サッシの導入を図りますという

ふうにあります。この辺についてもやはり断熱住宅っていうところでの市民のニーズは高いというところと関連すると、公共施設、古いというものが多いので、なかなか難しいかなっていうところと、あと学校の断熱ですね、学校の窓断熱や、それから天井の断熱っていうところで、子供たちの学ぶ環境が全然変わってくるというような他市の事例などもありますので、この辺についてはぜひ、今後、進めていただきたいなと。

建て替えの場合にはそうなるとは思うんですけども、現状でもできるところはやっていただきたいっていうところはやはり、先ほど和田委員からもあった予算要望とも絡むとは思いますが、このへんについて何か具体的な計画があれば伺っておきたいと思います。

以上です。

池上会長 はい。事務局からいかがでしょう。

高野係長 最初にいただきました、プラごみ削減の現状、プラごみの現状ということなんですけれども、こちらにつきましては、環境の審議会になってしましますので、詳しく答えることができないです。

2点目にいただきました自販機の公園への設置についてなんですけれども、昨年度、自動販売機に関する方針を策定させていただきました省エネ型のものを、市立公園2か所に設置しております。

これも省エネ型であったり、災害時に活用できる、防災センターという形で活用しているもので、今取り入れているところでございます。

学校の断熱化っていうところなんですけれども、こちらも学校のところになってしまふと、詳しくはお答えができないところにはなってしまいますんですけども、先ほど来からお話をさせていただいている、再生可能エネルギーの導入であったり、そういったところで、検討を進めていきたいというふうに考えておりましてそういったところでのCO<sub>2</sub>削減を目指していきたいというふうには考えている。

以上です。

岩佐課長 ちょっと補足なんですけれども、資料6の方でもお示しております実行計画の市役所版ということで市の取り組みとか、載っているんですけども、建替えとか改築の際には、なるべく再エネや省エネを意識してくださいってことも書かれていますし、より実効性を持たせら

れるように、今年度改正の方も予定していますのでそこら辺もＰＲで  
きるようにしていきたいと思います。

現状はですね、この市役所版というのは積極的に啓発と維持、とかで  
すね。

この辺は、後押しできるようにやりたいと思います。

田頭委員　　学校に限らずなんですかけれども、公共施設、全体的にやっぱり古く  
なっているとは思うので、そうすると、現状で二重サッシにするとか、  
そういうことは難しくて、建て替えや改修などの工事が入った段階で  
は取り入れていくと、今のところはそういう、計画であるということ  
で受けとめてよろしいんでしょうか。

ちょっとその辺、ちょっと確認させてください。

岩佐課長　　はい。

取り入れていくってことを目指しますってことで意識してもらえるよ  
うな形で、表現的にですね、とどまってしまいますけども検討はして  
もらえるようにですね、伝えていきたいと考えております。ありがとうございます。

池上会長　　他、施設が更新された新しい建物になって省エネ化が進んで減るのは、  
それはそれですごくいい。だけど一方で、新たに追加的に施設ができる  
ことって、本来、市民にとってはプラスでしょう。それがマイナス  
に見えてしまうところが、本当はサービスが向上して良いことのはず  
なのに、それを悪い方にとらえられてしまう。これを何とかしたいな  
と思っています。

荻原専任主査　なんですかさっき話題にもいってたと思うんですけど、やっぱりそ  
ういう増減っていう、どうしてもしようがない増減で出てきてしまうの  
で、やっぱり数字に、一喜一憂しないほうがいいんじゃないかっていう  
のは池上先生も同じ意見だと思うんですけども。

ただ、やっぱりどうしても数字でとらえられちゃうところがあるので、  
しようがないところもあるんですけども、ただやっぱりさっきも言  
いましたけどもやっぱり、市役所っていうのも市内にある1事業所として  
ね、こんだけ、こういうことして取り組んで努力してるんだよという  
要するに今、市民に向けたの、市民も取り組んでくださいねっていう  
ところを見せる。

アピールするところでもあるのでこの計画っていうのは、なので、その数字だけ言われちゃうとどうしても辛いところがあるんですが、こうやって、我々も努力してるんで市民の皆さんも協力してくださいねっていうところを、やっぱ、見せていくところだと思うので、そういう意味でとらえていただけすると大変助かります。

椿副会長

具体的な表並びに数字を出すところで、ここだけ見ていると読み取れない部分が出てきます。今おっしゃった通り、市民にとってサービスが向上したり、いい施設になっている面もあるので、注をつける、もしくは別のところに新たな施設になり、ごみの処理がこう変わった等記載があると、理解しやすいと思います。その他のページで、そういう記載はされているのでしょうか。

荻原専任主査 そうですねそういう意味では何が増えました、減りましたとかっていう表記がないので、現況の施設があつてそれの数字の羅列になつてしまっているところがある。

そうですかもしそういう何か見せ方ができるようになれば、どうしてもこの市役所案を公表しなさいよっていうのが、今の法律で決まつてるので温対法で。

数字を出すことになってるんで大丈夫ですけども、もしそういうところでちょっと見せ方もね、できるようであればちょっと聞きたい。

椿副会長 もしご検討いただけようだったら、ありがとうございます。  
ありがとうございます。

田頭委員 今の協議の副会長のご意見のように、私もそうだなと思いました。他の報告書だったかな、コラムって形で、何かちょこちょこっとその所属の終わった後の形でもいいと思うんですよね。かえってそのコラムみたいな方が親しみやすく読めるので、何かそれもやはり見えるようにしていただくといいなと思いましたので、ちょっと意見だけです。

池上会長 はい、ありがとうございます。

環境報告書の内容だったので意見書に記入するのかなと思っていたんですけど、関連するのでコメントします。

最初の方の、いろんな基本目標ごとの進捗状況の部分。細かな数字が出てたりとか、結果がどう変わってきているのかっていうデータが載

ってたり、表が載ってたりするんですけど、こんな細かいところまで見て、理解しようっていう市民は、それほど多くない気もしますので、そういう意味では、こここの部分は簡潔に、市としてはどうなってるのかっていうのが、そこだけで追いかけても、ある程度理解できるようなまとめがあるとすごくありがたいなと思います。

緑は数字はいっぱい載っているけど、結局小金井市は増えてるのが減ってるのかっていうのも、パツとはわからないので、今こういう状況だからこういうことに取り組んでいこうとしてるんだっていう、市の方向性も含めて整理されないと読みやすいと思いました。環境報告書は結果だけ載せるものなのかもしれない、そこの切り分けは悩ましいかもしれません。

他いかがでしょうか。

議題は以上です。

議題のその他について何かござりますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、次に、次回審議会の日程についてというところで事務局の方から、お願いいいたします。

田山主事 次回の第4回審議会の日程につきましては、皆さんメールで通知させていただいたところですが、10月28日火曜日、午前10時から前原暫定集会施設A会議室で行います。

通知や資料送付については、また別途開催が近くになりましたら発出いたしますので、よろしくお願いいいたします。

また、第5回日程について、11月下旬から12月上旬で調整しております。

本日17時を入力期日としておりますので、よろしくお願いいいたします。

池上会長 ありがとうございました。

全体を通して何かご意見等ござりますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第3回小金井市環境審議会を閉会いたします。

ありがとうございました。

— 了 —